

新しい船出

天の下では、何事にも定まった時期があり、
すべての営みには時がある。

(伝道者の書3章1節)



社会福祉法人 ぶどうの枝福祉会
愛の園 統括園長 信川恒夫

2020年も年末を迎え、デパートや街中では毎年のようにクリスマスツリーが飾られ、いつも見ている景色です。しかし今年はその年に毎年見る景色とは違った風景が目につきます。道行く人々が皆マスクをしています。今年是中国武漢から発した新型コロナウイルスで社会が根底から変えられた年であるといえます。

◇ 愛の園におきましても、4月に古いパソコンを更新し、ズームを使用した会議が可能な環境に整え、5月からはケアマネジャーと地域包括センターの職員のテレワークを導入しました。また、施設の玄関口には洗面台と自動体温計測機を設置し、日々の介護においても、手洗いやマスク着用、日々の生活面まで配慮するなど、緊張感をもって介護業務を行っています。先日行われた介護職員のPCR検査におきましても、検査対象者全員の陰性を確認したところです。

◇ このような中で、愛の園の建築工事は順調に進んでい

ます。開設二十七を経過して老朽化が進んだ建物の内装や設備を一つずつ更新しています。本場に厄介で手間のかかる仕事です。排水管の中をカメラで確認すると、石灰分で管の半分が詰まっていた。職員から水の流れが良くないと言われてはいたのですが、まさかこれほどまでとは思っていませんでした。エレベーターや大きな受電設備も更新しました。愛の園にとって、今行わなければいけない大切な仕事です。まだまだ道半ばですが、この工事は来年6月まで続きます。

◇ さて、今回のコロナ禍を通して、日常当たり前と思っていることが、神様の恵みであったことを改めて思い知らされました。朝起きて、食事をし、出勤できること。私たちを待っていてくださる利用者の方々、愛の園の仕事を支えてくださっている多くの職員や業者の方々。感謝の気持ちでいっぱいです。

◇ ぶどうの枝福祉会は神様のご計画の中で建てられ、成長してきました。すべてのことには、時というものがあつた、この地上での営みには時があると、伝道者は語っています。私たちは時代の風を読みながら、変化するものと永遠に続くものを見極めなければいけません。ぶどうの枝福祉会の理事長は、「この十二月に齋藤善樹から信川るり子に代わりました。私たちの法人も「自分を愛するように、あなたの隣人を愛しなさい。」の聖書のみ言葉を大切にしながら、神様の時、時代を見つめて、新しい時代の荒波に船出していきたくいと願っています。